

AGRI WORK POINT

アグリ ワーク ポイント



果樹林産センター 信方浩志郎

着果管理対策

樹冠上部摘果や枝別全摘果で取り残した果実があると、隔年結果防止効果が下がります。手直し摘果を行い、かつ小玉やスソ成り果、外観不良果を摘果しましょう。着果の少ない樹は、9月にまとめて外観不良果等を摘果します。

①マルチ被覆

マルチ被覆は、糖度上昇や着色促進、チャノキイロアザミウマの忌避効果が期待できます。

②フィガロン散布

二回目は、満開後90日（早生80日）を目安に3000倍を散布しましょう。ただし、樹勢の低下している樹には散布を控えましょう。

③かん水

夏季の雨量が少ないと減酸の遅れが心配されます。朝方になっても葉が巻いている時は、3〜5t/10aを目安に夕方にかん水を行いましょう。

病害虫防除

黒点病の防除は前回の散布から1ヵ月経過もしくは累積降雨量が250mmに達した時が目安です。害虫の発生状況に応じて殺虫剤を混用しましょう。

○黒点病

エムダイファア水和剤 600倍（60日〜2回）
※まとまった降雨が予想される場合は固着性展着剤アピオンE1000倍を加用すると黒点病の防除効果持続期間が安定します。

○チャノキイロアザミウマ・ミカンサビダニ

アグリメック 2000倍（7日〜3回）

○カイガラムシ類

トランスフォームフロアブル

○果皮強化

バイカルティ 1000倍

2000倍（前日〜3回）

方法	被覆時期	目的	条件
全面マルチ	8月上旬～ 8月中旬	着色促進 糖度向上	耕土が深く根群 分布が広い園地
部分マルチ	8月下旬～ 9月上旬	着色促進	耕土が浅く 乾燥しやすい園地